

玉城中学校 平成 29 年度 全国学力・学習状況調査結果概要

2017 年 4 月 18 日に行われた全国学力・学習状況調査の結果をまとめました。ここでは、全国や三重県のデータと玉城中のデータを見比べて玉城中学校の生徒の状況について分析しました。この分析は三重県、全国と比較して、国語、数学で問われる学力のどこが強みで、どこが弱みか、また、学習状況調査から見えてくるよりよい学習習慣について確認してみました。

1 教科に関する調査結果

(1) 実施した教科

- ① 国語 A（主として「知識(基礎・基本)」の習得状況）② 国語 B（主としてその知識を「活用する力」の定着状況）
③ 数学 A（主として「知識(基礎・基本)」の習得状況）④ 数学 B（主としてその知識を「活用する力」の定着状況）

(2) 本校の結果の概略

本校の平均正答率は、国語 A・B、数学 A・B とも三重県、全国平均を上回りました。特に国語 B では、三重県の結果と比べて優位の有意差が見られました。

国語 A（知識）の結果を、カテゴリー（学習指導要領の領域別＜以下、領域別と略す＞、評価の観点別＜以下、観点別と略す＞、問題形式別＜以下、形式別と略す＞）別に見た比較については、三重県平均に対して領域別の「A 話すこと、書くこと」観点別の「2 話す、書く能力」、領域別の「B 書くこと」観点別の「3 書く能力」の項目で優位な差がありました。

【国語 A 強み】

- 話し言葉と書き言葉の違いを理解する。
- 事実と考えとの関係に着目し、構成を工夫して書く。
- 目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えをまとめる。
- 相手に分かりやすいように語句を選択して話す。
- 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。
- 古典には様々な種類の作品があることを知る。
- 無解答率が低い。

【国語 A 弱み】

- 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する。
- 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。
- 事象や行為などを表す多様な語句について理解する。
- 楷書と行書の違いを理解する。

正答率を設問別に見ると、正答率は 32 設問中 29 問で上回っており、その中の 10 問で上位の有意差がありました。また、無解答率についても、全ての設問で三重県、全国を下回り、6 設問で優位な差がありました。

国語 B（活用）では、領域別、観点別の「話す・聞く」「書く」「言語文化」のカテゴリーで三重県や全国との優位な差がありました。また、形式別でも「記述式」に優位な差が見られました。

【国語 B 強み】

- 表現の仕方について捉え、自分の考えを書く。
- 必要な情報を集めるための見通しを持つ。
- 無解答率が低い。

【国語 B 弱み】

- 太宰治と他の作家との関係を書き直した物として適切なものを選択する。

設問別では、9 設問中 6 問で三重県、全国と比較して優位な差がありました。無解答率も国語 A と同様です。

国語 A,B の結果を見て、今後の指導について留意したいこととして、今後も読書等の活動を推奨することや、論説的な表現や時事用語、生活と直結した語彙力を育成したりすること、さらに、正しい日本語の使い方の習得を進めていくため、普段から新聞や説明文を読んだり、同世代だけでなくいろいろな年代の人との交流をすすめたりしていくことも重要であろうと考えます。

数学 A（知識）では、カテゴリー別では、領域別の「D 関数」分野で 95%信頼度（5%水準）で三重県、全国平均との間で優位な差がありました。観点別では「3 数学的な技能」で全国平均と優位な差が見られました。全体的には、すべてのカテゴリーで三重県、全国よりも正答率が上回っていました。

【数学 A 強み】

- 数量の関係を文字式で表す。
- 与えられた文字式の意味を、具体的な事象の中から読み取る。
- 円柱の体積を求める。
- 錯角の位置にある角について正しい記述を選ぶ。
- 二元一次方程式が表すグラフを選ぶ。
- 記録の範囲を求める。
- 度数分布表から、ある階級の相対度数を求める。

【数学 A 弱み】

- 方程式の解の意味を理解する。
- 平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ
- 変化の割合が 2 である一次関数の関係を表した表を選ぶ。

36 設問中 21 問で三重県、全国より優位な差がありました。このことから基本的な知識については身についてきている事が分かります。無解答率は国語と同様、低くなっています。

数学B（活用）では、全国、三重県と比較して「関数」「資料の活用」の領域、「数学的な技能」「知識・理解」の観点、「短答式」の形式でそれぞれ、三重県や全国に対して優位な差がありました。全体的には、すべてカテゴリーで三重県、全国を上回っています。

【数学B 強み】

- 事象と式の対応を捉え、事象が成り立つ理由を説明できる。
- 表やグラフから必要な情報を読み取ることができる。
- 数学的な表現を解釈して的確に処理できる。
- 筋道を立てて考え証明することができる。
- 資料から必要な情報を読み取ることができる。
- 必要な情報を選択して、事象に即して解釈できる。

【数学B 弱み】

- 数学的な表現で説明できる。
- 図形の移動に着目して対称性を捉えることができる。
- 問題場面における考察対象を明確に捉える。
- 証明した事柄を用いて新たな性質を見出す。
- 資料の傾向を的確に捉え数学的に説明できる。

設問別に見ると、15 設問中 8 問で三重県、全国平均と優位な差がありました。

数学 B での弱みの要因としては、文章で書かれた設問の意味理解が不十分であることが考えられます。さらに、説明をするときに筋道を立てることの必要性が十分理解できていないことも考えられます。

数学でも国語同様、無解答率が非常に少なく、最後まで取り組んだ姿勢がみられたことは評価できることです。

2 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査結果

- (1) 質問紙の主な内容 ① 普段の生活習慣に関する質問 ② ふだんの学習習慣や学習環境についての質問
③ 学校生活・授業に関しての質問

(2) 本校の結果から見た強み、弱み

ここでは、調査結果から(1)の①、②、③を中心に本校の強み、弱みを考察します。

- <強み> ○毎日、同時刻に起きたり、寝たりするなどの基本的な生活習慣が身についている。
○自尊感情ができています。 ○コミュニケーション力が付いている。
○人の意見を聞く力が付いている。
○学んだ事を活かそうとしたり、自分の考えを発表したりするなどの力が付いている。
○学校が好きである。 ○学級みんなでやり遂げ嬉しかったことがある生徒が多い。
○地域活動に積極的に参加している。 等
- <弱み> ●TVの視聴時間が長い。 ●学習時間が少ない。
●家で宿題をしている、家で予習・復習をしている生徒の割合が低い。
●予習、復習時間が少ない。 ●新聞を読む習慣がある生徒が少ない。



(1) 強みについて

毎日、同時刻に起きたり、寝たりする毎日のリズムをきちんとできているようです。また、友達との人間関係や地域社会とのつながりを大切にして行動している傾向が強く見られます。学んだ事を活かそうとする気持ちや、周りの話をよく聞き、自分の考えを発表できるという点は、社会に出ても欠かせないスキルであり、頼もしく感じます。また「学校が好き」という気持ちはより良い学びを実現するための土台です。今後も、また、次の学年になってもずっと、みんながそんな生徒でいてほしいものです。

(2) 弱みについて

弱みの中で一番気になるのが時間の使い方で、TV 視聴時間が長すぎることで、逆に学習時間が少ないことです。また、家で行っている学習について、予習や復習はあまり実践されていない点はいただけません。新聞を読む習慣が付いていないことについても、世の中の動きに注目する必要性を感じると共に、その動きに乗じて自分たちが何をすべきか考える機会が減ってしまっていることも問題点だと考えられます。

このほか、玉城中の生徒は三重県や全国と比較して通塾率が高くなっています。「自分で考えること」「生徒同士で高め合っていくこと」を今後も推奨したいと思います。また、読書好きはあまり多くありません。この調査の結果を読書好きかどうかでクロス集計したところ、読書が好きな生徒ほど正答率が高い傾向があることが明らかになりました。その点でも新聞、小説等、文字に触れることを大切にしてほしいと考えます。

<今後の方向性>

この調査は4月に行われたもので、今の状況は少し違ってきているとは思いますが、学校では、この結果をふまえて今後の指導の糧にしていきたいと考えています。学習面では、基礎・基本を大切にしていけるのはもちろんのこと、学習した内容をより深く掘り下げたり、活用したりする学びも実現したいと考えます。また、「教えられる」ことを中心とした学習場面だけでなく、「自ら考える」「互いの学びや知識・技能を共有する」といった学習を取り入れることで学びの定着や発展につなげ、子どもたちが未来を生きていくために身につける必要がある学習スキル、生活スキルを獲得してほしいと考えています。さらにまた、時間の使い方についても、受験という大きな局面を迎えることとなりますので、「有効な時間の使い方」について考えることを促したいと思います。